

秋田焼山の火山活動解説資料（平成 23 年 8 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 2～3、図 5～7）

東北地方整備局が山頂の西約 2 km に設置した焼山監視カメラでは、湯沼及び叫沢源頭部の噴気の高さは 20m 以下で、噴気活動は低調な状態が続いています。

29 日に東北地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、湯沼付近及び叫沢源頭部の地熱域の地表面温度分布¹⁾の状況に大きな変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震や微動の発生状況（図 4）

火山性地震は少ない状況が続いています。
火山性微動は観測されませんでした。

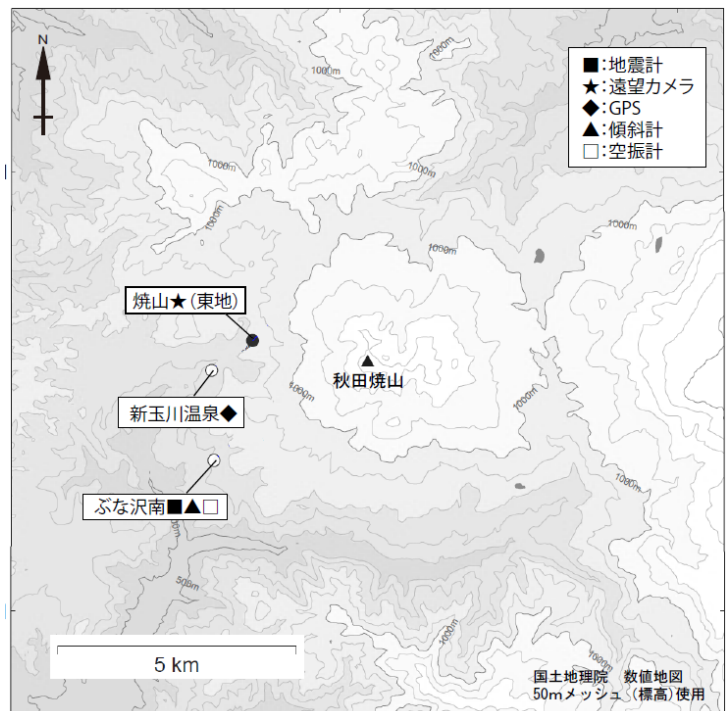


図 1 秋田焼山 観測点配置図

（小さな白丸は気象庁観測点位置を示しています。
小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。）
（東地）：東北地方整備局

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 9 月分）は平成 23 年 10 月 6 日に発表する予定です。

※この記号の資料は、国土交通省東北地方整備局のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。また、同院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を複製しています（承認番号 平 20 業使、第 647 号）。



図 2※ 秋田焼山 叫沢源頭部の噴気の状態（2011 年 8 月 5 日 08 時 50 分頃）

山頂の西約 2 km に設置してある焼山監視カメラ（東北地方整備局）による。

赤丸実線で囲んだのが、叫沢源頭部の白色噴気で高さ 20m。

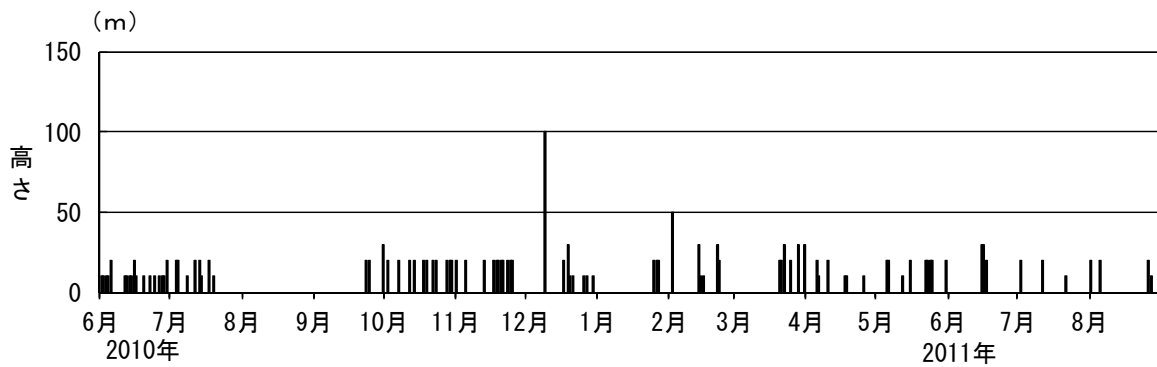


図 3※ 秋田焼山 日別最大噴気の高さ（2010 年 6 月～2011 年 8 月）

2010 年 6 月 1 日から焼山監視カメラ（東北地方整備局）により観測開始。

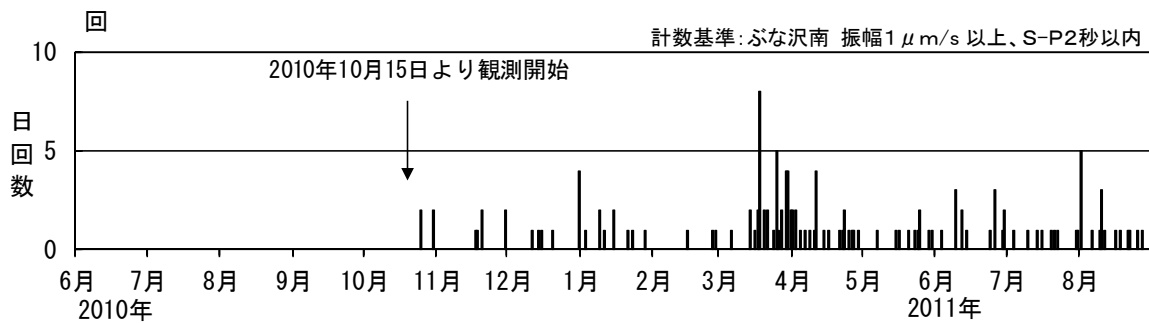


図 4 秋田焼山 火山性地震の日別回数（2010 年 10 月～2011 年 8 月）

2010 年 10 月 15 日から観測開始。

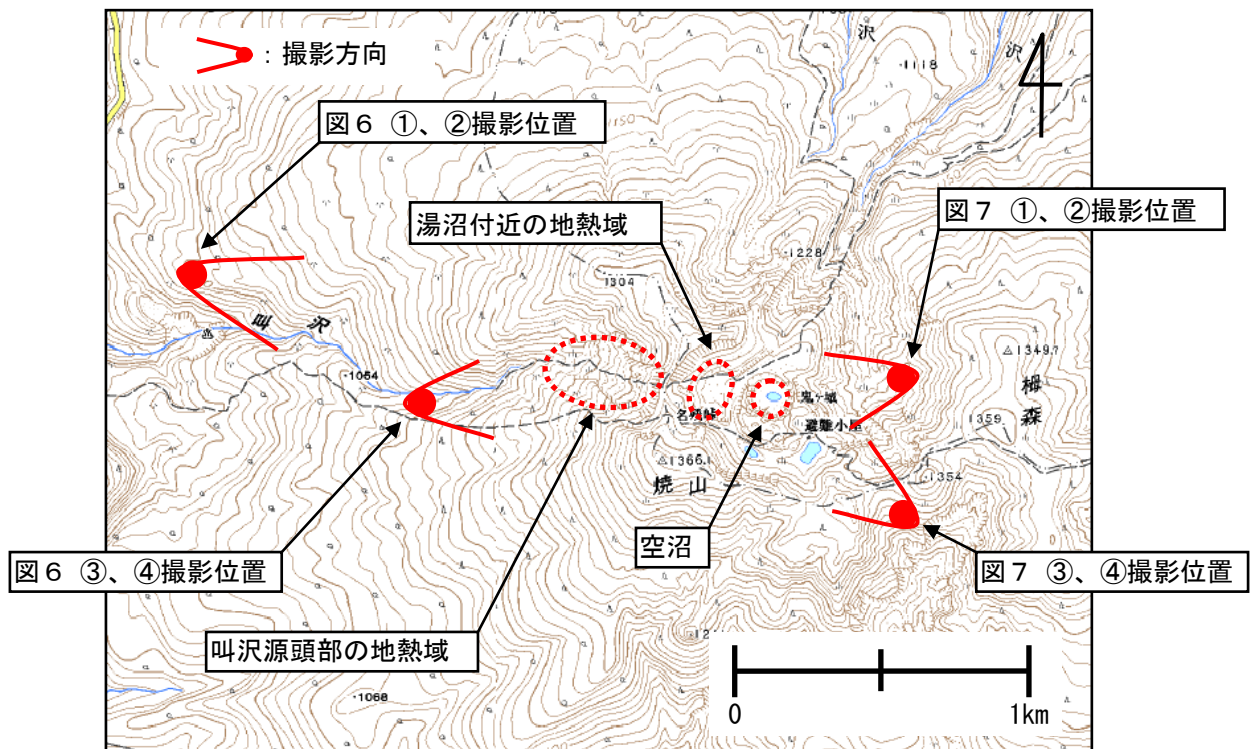


図5 秋田焼山 地形図と図6～7の撮影位置

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を複製しました。

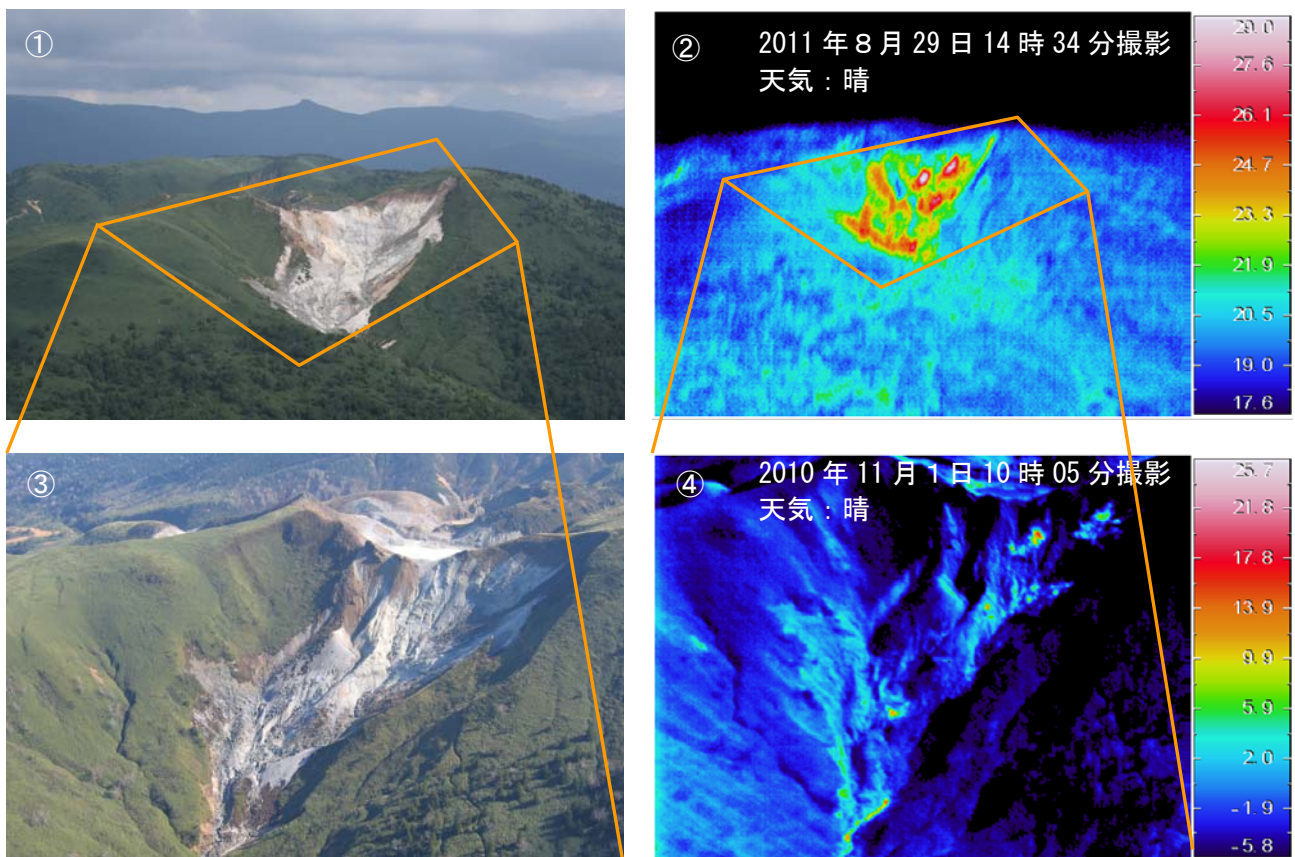


図6 秋田焼山 叫沢源頭部の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

①、②：2011年8月29日撮影（東北地方整備局の協力による）

③、④：2006年11月1日撮影（秋田県の協力による）

今回（2011年）は日射の影響もあり、また、前回（2006年）と画角が違い、比較は難しいが、地熱の高い箇所に大きな変化は認められません。

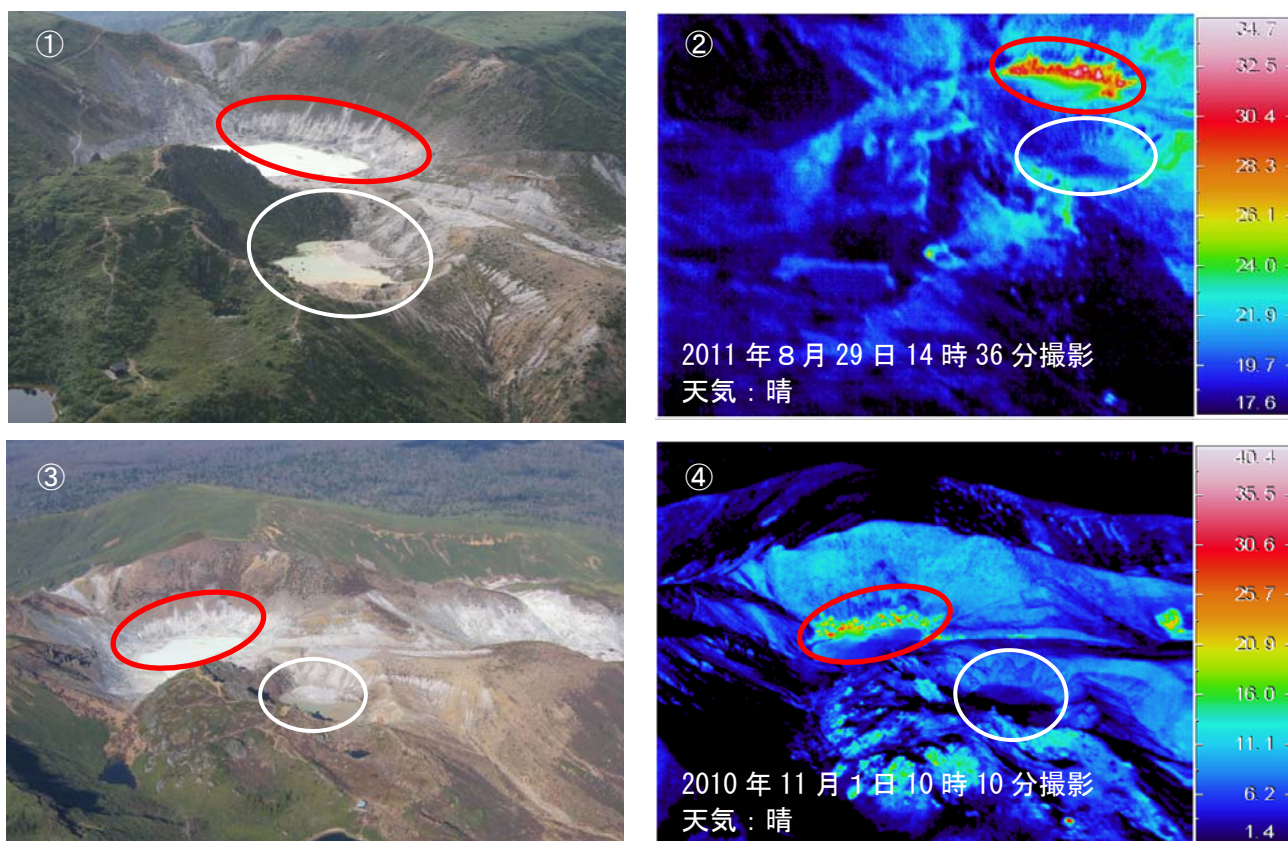


図 7 秋田焼山 湯沼付近及び空沼の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

①、②：2011年8月29日撮影（東北地方整備局の協力による）

③、④：2006年11月1日撮影（秋田県の協力による）

- ・図の赤丸が湯沼付近の地熱域です。地熱域の広がりには大きな変化は認められません。
- ・図の白丸が空沼です。地熱の高い箇所は認められません。